

森林環境教育（森林E S D）プログラム分析シート

プログラム名： 森のようちえんから広がる、里山の人・世代・未来				
(1) プログラムの目標	森のようちえんウィズ・ナチュラの園児と保護者、職員が明日香森林環境教育フィールドForest Riverのスタッフと共に、里山整備や環境教育イベントでの交流を通じてお互いの課題をサポートしながら、自然とのふれあいや里山保全等の大切さを学び合う。子どもに教えるというよりは、大人も共に体験し学ぶことを大切にしている。大人が意欲的にかつ楽しく里山活動をしている姿を見せることが大事だと考えている。			
(2) プログラムの概要	明日香村栢森にある数カ所のForest River所有のフィールドにて、平日や土曜日に保育と親子参加のクラスを行う。それに伴い、子ども達が安全に遊べるようにForest riverのメンバーに指導や援助を受けながら、職員や保護者が里山整備に関わらせてもらっている。子ども達も手伝いながら、自分たちが遊ぶ場所で大人が自分たちのために協働して動く姿を見ている。 年間数回あるForest Riverの環境教育イベントにスタッフとして参加し、自然と人との関わりを学び、自らそれに対してできることを考える機会としている。			
(3) プログラムの展開				
活動内容について、プログラムの流れで、記載する。 合わせて、段階的な学びとして、3つのタイプのアクティブ・ラーニング（in、about、for）の視点で活動内容を区分してみる。 ・in（～の中で）－ 体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能） ・about（～について）－ 情報収集・分析、情報交換、討論など（知識・技能、思考・判断・表現） ・for（～のために）－ 提案、実践など（態度、参加・行動）				
時間数	プログラムタイトル			
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）		
	in、about、for の視点で活動内容を区分			
25	環境教育イベント			
	しいたけホダ木作り・菌打ち体験 田植え・稲刈り体験、野菜や果実収穫 夏体験（そうめん流し、木工製作） 冬体験（リース・門松作り、餅つき） 等 体験・観察・製作	農業体験や行事食を通して日本の伝統的な食と命について考える機会を持つ。木工製作では、自然物から想像して作る喜びを感じる。		
5	森林整備体験			
	地元の若手林業家の久住氏にレクチャーしてもらい、森林整備や日本の森林や林業の歴史を知る。	森林に入り、山全体や木の状態を伝え、実際に重機を使って林道整備している様子を見せる。		
	体験・情報収集・実践			
製作、準備等 8	神奈備舞台で竹灯り			
	地元でのお祭り「飛鳥光の回廊」に合わせて竹灯りでライトアップ。	竹の切り方や穴あけの仕方を教わり、大人が竹を切ったり、竹ひごを作り、子ども達は、和紙に葉っぱで叩き染をして竹灯籠を作成した。電気を使わず、ローソクと竹のあたたかな灯りの良さを感じた。		
	体験・製作			
10	フィールド整備			
	草刈り 防災カマド設置 砂場設置 等	子ども達の安全のためやスムーズな保育ができるよう、Forest Riverのスタッフの指導のもと整備をする。子ども達も自分ができることを手伝う。		
	体験・製作・提案・実践			

(4) プログラムでの連携内容

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

①明日香森林環境教育フィールドForest River

②森のようちえんウィズ・ナチュラがForest River 管理の里山を保育フィールドとして貸していただいている。団体会員として、イベントスタッフとして関わっている。(ようちえん職員・保護者・園児)

③保育フィールドの使用や整備等の相談や要請。イベントの内容相談。ウィズ・ナチュラの秋祭りの共催支援等。

学習指導要領との関連 (例 小学校)

1年	生活：身近な自然の観察、利用
2年	生活：生き物を育てる、成長
3年	社会：飲料水、地域の生活 理科：昆虫と植物（自然の観察、植物を育てる）
4年	社会：都道府県の様子・生活 理科：季節と生物（身近な植物の成長、季節による違い）
5年	社会：国土の自然・環境、国土保全 理科：植物の発芽、成長、結実
6年	社会：歴史上の事象、文化財 理科：生物と環境
総合的な学習	横断的・総合的な課題の学習、社会体験、討論・発表
特別学習	遠足・鑑賞、集団活動・生活

森林環境教育の視点

1 感性的経験	感性的な内容 — 森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など
2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容 — 植物や動物の生態など
3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容 — 森林の働き、保安林など
4 現状・課題	森林の現状に関する内容 — 森林の荒廃、人手不足など
5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容 — 森林整備、育成、維持、管理など
6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史 — その土地での歴史、薪炭林、炭焼き

(5) 活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位3項目

教科・項目、視点	学習内容
感性的経験	ただ自然に触れるだけでなく、そこで世代を超えたたくさんの人とも触れ合うことで、自然の中にある多様性や人の世界にある多様性を感じることができます。そこで自分が感じていることは目には見えないけれど存在していること、ありのままの自然や自分ではどうすることもできない四季の移りや天気の変化にも柔軟に受け入れることができます。
自然的特性	四季を1年でも経験すると、もうそろそろ冬イチゴがなる、とか、アカハライモリはもうすぐ出てくるかな？とか、里山に生きる動植物のことを思い巡らせるようになります。誰も教えてはないけれど、子ども達にとって自分の心が動いた経験や思い出は大人に知識として教わることより心に残ります。そして、とてもよく観察しています。
管理・維持	森林や里山整備は森のようちえん関係者はこれまで経験がないこともあって、整備の仕方やかマドやベンチなどの設置に関してレクチャーやお手伝いをしていただけることはとてもありがたいです。子どもの親世代がそれを引き継ぎ、子ども達や次世代にも伝えられるようにと思っています。

(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)				
E S Dの要素 (生きる力)	能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
		2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つなぐを尊重する態度
		3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
		4 コミュニケーションを行う力		
資質・能力 三つの柱	①生きて働く「知識・技能」の習得			
	②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成			
	③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養			
次期学習指導要領では、持続可能な開発のための教育（E S D）等の考え方も踏まえつつ、「生きる力」とは何かを、「資質・能力」（三つの柱）に沿って具体化するとしています。 活動を、三つの柱の項目に再整理して記載をしてください。（該当がない項目は空欄）				
項目	E S Dの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。			
①生きて働く「知識・技能」の習得	6 つなぐを尊重する態度 自分の命や存在は、日々過ごしている森からの恩恵をたっぷり受けていることを、保育以外での機会に気づくことができる。多様な考えや価値観に出会うことの豊かさ、人や環境の中にある自然を見つめ、自分（本当の気持ちややりたいこと）を知る機会となっている。子どもが自ら学んでいける環境を大人が考えて作っているその姿を見せることが何よりも大切だと感じている。			
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	4 コミュニケーションを行う力 日々の保育でも自分の思いを自分の言葉で伝えるということを大切にしているので、自分で見て感じて考えて動くということがベースとなっている。保育以外のこういった機会でもまずはこの日の活動の意図や目的などは聞いた上でどうするか自分で決めて動く。困ったことなどは自分から聞く、新しい友達や目下の子には助けてあげることができる。			
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	5 他者と協力する態度 他者と協力するということが、大人がやっていないと子どもはその本質的な意味がわからないと思います。なので、まずは大人がやって見せるところから。そうすれば、教わらなくても子ども達は自然と協力し合います。目上の友達からしてもらって嬉しいことは目下の子にやってあげたくなる。そういう機会が沢山あります。			
(7) 実施後、参加者の変化				
一番は保護者や職員の大人の意識や行動が変わりました。やりたい人が率先して参加し、子ども達や未来を思いながら意欲的に活動する姿は子ども達にとってもとても良い体験になっていると思います。イベント的に終わらず、一人一人の人生の中に森林や自然の営みが意識として入っていると感じます。森のようちえんに通わせる親御さんは入園前まではここまで意識を必要とするとは思っていなかったはずですが、子ども達を通して自然とそうなったことが大きいです。				
(8) 安全対策として事前・当日の取組事項				
毎日自然の中で過ごしているので特にありません。				
(9) プログラムの今後のめざす方向・展開				
連携するイベントの内容を充実させたい。幼児期の親子向けプログラム、参加型プログラムを通してより深いコミュニケーションやご縁を作る場。仲間づくりなど。森林整備をもっと学びたいと思っています。				
(10) 現状での課題、質問事項など				